

保育理念		神様を愛する子ども 人を愛する子ども 土(自然)を愛する子ども							
保育方針		神様の愛の中で、一人ひとりの子どもの個性を大切にし、家庭や地域の人々と協力し合って、心と体が健康な子どもを育成します。			保育目標				
令和5年度 年主題 ともにつむぎだす ～希望の中で～	神さまとのつながり	キリスト教に根ざした願いを追って、 ○ 遊びと生活への思い、人や環境へのつながりという視点で考える ○ 生活や体験の重なりが深まっていくことへの確認、広がっていくことの希望が生まれることを願う ○ 子どもの信じる心を育む ○ コロナ終息後の生活を新しい形で紡ぎ出し、絡まり合っていく喜びを共に感じる			○安全で安定した環境の中で楽しく活動します。 ○一人ひとりの自由と個性を受容し、個人差に配慮した保育を行います。 ○キリスト教精神に基づき善悪を判断出来る、心が健康な子どもを育てます。 ○戸外遊びなどを通して体を動かして遊ぶことの楽しさを体験し、丈夫な体を育てます。 ○地域の人々や教会の人々など様々な人との関わりを通して、人を思いやる優しい心を育みます。 ○音楽や言葉への興味・関心を意欲的に持ち、豊かな心、創造性、話を聞く姿勢を養います。 ○国際時代に生きる子どもたちに必要な、感性豊かな人間を育てます。 ○地域から信頼される保育園をめざし、積極的に子育て支援を行います。 ○障害の有無にかかわらず、それぞれの幼児のもつ優れた可能性を十分に引き出し、伸ばします。				
	人とのつながり								
	環境とのつながり								
	保育者の視点に立って								
児童の健康管理	内科検診・歯科検診、発育測定、食育の推進	地域活動	育児相談、実習生等の受入れ、保育園見学	【主な行事】 イースター/保護者会総会/母の日/内科検診/歯科検診/花の日/クッキー作り/父の日/ お店さんごっこ/お楽しみ会(年長)/納涼のタベ/運動会/秋の遠足/収穫感謝祭/クリスマス/個人面談/クラス発表会/会食/卒園遠足/誕生会/避難訓練/誕生会/子育て講座					
環境・衛生管理	園内の清掃・美化 玩具・砂場の消毒	職員の研修	キャリアパス研修、園内外の研修への参加						
事故防止・安全対策	避難訓練、設備点検、備蓄品、職員検便	小学校との連携	学校見学、保育所児童要録の作成						
子育て支援	保護者会、個人面談、園庭開放、園だより	保育内容等の評価	保育理念・方針の理解、自己評価、計画の作成						
教育及び保育の基本/目標		保育の方法		社会的責任	子育て支援	地域との連携	小学校との連携(接続)		
児童福祉法(昭和22年法律第146号)第39条に基づき保育を必要とする子どもの保育を養護と教育を一体的に行うことでその健全な心身の発達を図る。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を目標として、環境を通じての教育により3つの資質・能力の育成に努める。		0～5歳児まで、各1クラスずつで保育を行う。キリスト教保育に基づき、それぞれのクラスでの活動や全体的な活動を通じて、集団における活動を効果あるものにするよう援助するとともに、一人ひとりの発達過程や個性を大切に保育する。		子どもの人権に十分に配慮し、子どもの人格を尊重し保育を行う。地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切、わかりやすく応答的な説明をする。個人情報適切に取り扱う。保護者の苦情解決を図るよう努める。	保育所の特性を生かし、保育園を利用している保護者や地域の保護者に対して、地域の実情を踏まえ、個々の状況に配慮した子育て支援を行う。	地域の子どもを巡る諸問題に対し、地域の関係機関や人々と積極的な連携及び協働を図る。	保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う。小学校との情報交換や交流の機会を持ち、保育園での保育と学校教育との円滑な接続に努める。就学に際しては、保育所児童要録を小学校へ送付する。小学校接続カリキュラムの作成をする。		
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿		1. 健康な心と体 2. 自立心 3. 協調性 4. 道徳性・規範意識の芽生え 5. 社会生活の関わり 6. 思考力の芽生え 7. 自然との関わり・生命尊重 8. 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 9. 言葉による伝え合い 10. 豊かな感性と表現							
養護に関わるねらい及び内容						年齢別保育目標			
ねらい	生命の保持		情緒の安定			0歳児 ・担任を通してしっかりした人間関係を作る。・遊びや食事を通じて、五感覚の発達を促す。・快、不快を感じるができる環境をつくる。・屋外での自由遊びを十分に保障する。 1歳児 ・一人遊びを十分に保障する。・多様な経験を通じて、言葉を獲得できるようにする。・基本的生活習慣の獲得に向かう環境をつくる。・探索活動を十分に保障する。 2歳児 ・友達への関心が十分に育ち、つながりが持てるようにする。・言葉で表現する喜びを味わえるような環境をつくる。・基本的生活習慣が快い感覚として身に着くようにする。・みため、つもり遊びを十分に保障する。 3歳児 ・遊びや身近な生活経験を通じて、仲間との関係を育てる。・基本的生活習慣の自立に向かう環境をつくる。・身体全体を使った活動を十分に保障する。・自分の要求や思いを言葉や行動で表現する環境をつくる。 4才児 ・集団生活を通じて、自律に向かう環境をつくる。・運動や製作を通じて、できた喜びを持てる環境をつくる。・自分の思いや考えを言葉で相手に伝えられるようにする。・想像の世界を豊かにしていく環境をつくる。 5歳児 ・基本的生活習慣を確立できるようにする。・仲間同士が協力する活動を十分に保障する。・イメージを豊かに持ち、それを表現する環境をつくる。・就学に向けた社会性を身につけられるようにする。			
	① 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ② 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③ 一人一人の子どもの生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④ 一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする。		① 一人一人の子どもが、安定感をもって過ごせるようにする。 ② 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③ 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④ 一人一人の子どもがくつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする。						
	・一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。・家庭との連携を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。・清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活のリズムがつくられていくようにする。・子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。		・一人一人の子どもが置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。・一人一人の子どもが気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。・保育士等との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。・一人ひとりの子どもの生活のリズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。						
	内容		内容						
教育に関わるねらい									
視点	《健やかに伸び伸びと育つ》		《身近な人と気持ちが通じ合う》			《身近なものと関わり感性が育つ》			
	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。		受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。			身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。			
乳児	① 身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。② 伸び伸びと体を動かし、はう、歩くなどの運動をしようとする。③ 食事、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。		① 安心できる関係の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。② 体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。③ 身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。			① 身の回りのものに親しみ、様々なものに興味や関心をもつ。② 見る、触れる、探索するなど、身近な環境に自分から関わろうとする。③ 身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。			
	健康		人間関係		言葉		表現	環境	
領域	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。		他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。		経験したことや考えたことなどを自分なり言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。		感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。	周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。	
	① 明るく伸び伸びと生活し、自分から体を動かすことを楽しむ。② 自分の体を十分に動かし、様々な動きをしようとする。③ 健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ。		① 保育所での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じる。② 周囲の子ども等への興味や関心が高まり、関わりをもとうとする。③ 保育所の生活の仕方に慣れ、きまりの大切さに気付く。		① 言葉遊びや言葉で表現する楽しさを感じる。② 人の言葉や話などを聞き、自分でも思ったことを伝えようとする。③ 絵本や物語等に親むとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる。		① 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な感覚を味わう。② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現しようとする。③ 生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる。		① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。③ 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。
3歳以上児	① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		① 保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。② 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。③ 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		① 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。② 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。③ 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。		① いろいろなもの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。② 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする。③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。